

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)
 (項目5, 7, 8, 9, 14, 15は評価重点項目です)

↓ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	町内の住民として、係らせて頂き交流を深めている。日々の生活そのものが理念の内容と一致しており自然体でできている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業の要であり、柱である理念を掲示すると共に入居者、職員共に毎日、日課の一部として唱和している。サービスの質を高める為には、共有と実践が不可欠である。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ご家族には見学、契約、入居時等にサービス内容と共にお話させていただいている。又、地域の皆様にはお互いの諸行事、会議等の中でお話し、理解させていただいている。		
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	職員も入居者もほとんど変わっていないため、挨拶、声掛けが日常的になっている。散歩に出かけるとその場で野菜をいただける様になりとても親近感がわき、嬉しく思っている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内の住民として、七福神全体を地域で支えていただいている。町内の諸行事(さいの神・パーベキュ大会・敬老会等)などにも参加させていただき交流も(七福神主催の夕涼み会に町内の子供たちやご家族等の参加を頂いている)充実しており、大変恵まれている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	全国的な展開をしている認知症キャラバンメイトが多数いるので、行政とタイアップしながら地域の研修会等に出向き認知症ケアの啓発に努めている。又、町内の敬老会には入居者、職員も参加させていただき出し物等で場を盛り上げている。		事業所が主催する行事に地域住民からも多数参加していただけるような場作りをしたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価はサービスの質を高めるための手段であり、大変意義のあるものと全員が認識している。だからこそ自己評価は全職員で行い、気づきをもちながら改善に努めている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の内容としては利用状況、運営状況、行事内容等を取り入れ報告検討意見等を交わし、GHのサービスのみならず法人全体のサービス向上に取り組んでいる。会議の開催により更に地域の方々とのコミュニケーションが良好となり「遠くの家より近くの隣人」という絆が更に深まっている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政と介護保険事業所が協働して、サービスの質や事業の運営経営上の課題を客観的に把握し、事業の改善や利用者本位の介護を拡充する活動を推進する為に、市と市内の介護保険事業所によって設立した「妙高市介護ネットワーク」を始め、担当者レベル間では、いつでも話し合い情報交換が出来る状況にある。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修会には積極的に参加している。報告会として内部研修を行い、全職員に周知している。非常に難易度が高くなかなか理解しがたい。(今のところはいない)		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の内容を今一度内部研修として、省みる機会をつくっている。職員のイライラ感が虐待へ発展させる要素ともなりかねないため、ストレス解消に力をいれ環境改善に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には十分な説明をし、理解をしていただいている。又、家族のお話も聞き入れるよう努力はしている。退居時については、家族と十分話し合いを行いフォローを行っている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議には利用者からも参加していただき日頃の思っていること、感じていることを話していただいている。必要な事は事業に反映している。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>居室担当者が責任を持って毎月初めに情報を文章化しお知らせしている。又家族が来られた時も出来るだけ細かくお話をしている。また毎月グループホーム内での活動や行事を写真集としてまとめ「七福神だより」をお届けしている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>いつでもお引き受け出来る様柔軟な体制になっている。又、運営推進会議には家族の代表からも出席していただき、反映させていただいている。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>トップダウンはしない。自分達で考えて企画、実行、反省等を行い現場を進めている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>H20年7月よりDSを行うことで職員の専任体制をとり柔軟な対応を取っている。ゆとりからいうと0.5~0.7人増強したい。</p>	<p>現在募集等をかけている。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>マンネリや慣れの回避のため異動は行っているが、最小限に留めている。利用者との馴染みの関係を大事にしている。</p>	
18-2	<p>マニュアルの整備</p> <p>サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている。</p>	<p>各種マニュアルの整備は行われているが見直しが検討課題であった。H20年順次見直しを行い周知している。</p>	<p>引き続き行っていく。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員が段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>関係機関が行う外部研修に参加し、研鑽している。情報提供は常に行い、与える研修ではなく自ら参加する研修へと移行している。一方必要に応じては指名参加も行っている。</p>	<p>職員を育てることも大切ではあるが、自分も共に育つことが重要と思われる。引き続き取り組みを、強化していきたい。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>妙高市介護ネットワークにより同業者との交流も図れ、良い機会となっている。又、他GHとの交流も随時行っている。</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員アンケートをとり改善等を図った。働きやすい環境作りを重点的に行った。準職員を全員正職員に採用し、職員休憩室の確保などをおこなった。</p>	<p>大勢の中ではなかなか意見が言えない人の吸い上げも行い小さい施設の良い所を伸ばしていきたい。全職員が同じ方向を向いて納得して仕事ができるよう努力していく。</p>
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>トップダウンは、理念から外れていない限りしないようにしている。自分達で考えて企画を実行、反省、評価を行い現場を進めている。</p>	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居の相談のあった時必ず本人に会って状態や思いを聞き、本人に受け入れてもらえるように努力している。又デイサービスを利用していただきサービスの利用につなげている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>初めての相談に来られた時には、ご家族の思いや困っていることをゆっくり聞いて安心していただけるようにしている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の相談に来られた時は話をよく聞き、まだ在宅でもいけそうな時には、デイサービスを利用していただく等勧めている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス利用される前には、出来るだけホームに本人や家族に来ていただいている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者からいたわってもらったりしている事があり、喜びや楽しみや不安を共感し支えあい、人生の先輩から様々な事を学んでいる。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会に来られた時に、ホームでの様子を話したり、外泊時の様子を伺い情報交換をしている。月に1回ホーム便りや近況報告をしている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	1ヶ月に1度ご家族から直接お支払いに来て頂き、ご家族との関係が途切れないようにしている。外出や外泊、行事への参加を勧めている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚の冠婚葬祭に出席される方がおられる。又、知人の来訪時はゆっくり話ができるような環境作りに配慮している。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	お茶の時間や食事の時に職員も一緒に会話し、利用者同士の関係が円滑になり孤立しないように支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用が終了したご家族とお会いした際には、こちらから声をかけ話を伺うなどしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の日頃の会話の中から、意向を把握できるようにし、又ご家族や関係者からも話を聞いてできるだけ情報を得るようにしている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用する前にご本人や家族と話し合っって情報を聞き取る様にし、利用後も本人や家族から折に触れて今までの生活歴や環境の情報を把握できるようにしている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	本人の一日の過ごし方、生活のリズムを把握しその上で心身状態や体調の変化に合わせて対応している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1回の会議でいろいろな意見を出し合ったり日々の生活の中での意見を取り入れたり定期的にモニタリングの中から介護計画を作成している。		研修会でセンター方式の勉強を行い、ご利用者のアセスメントをし、介護計画につながるような取り組みをした。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状態に大きな変化が生じたときには、関係者と話し合っって介護計画の変更を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子を個別に記録し情報を共有し、介護計画やケアの実践に役立てている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	GHの居住環境を生かしデイサービスを行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の方々やボランティア、民生委員、教育機関の協力を得て交換の機会を設けている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の必要性を考えて、他のサービスが利用できるかカンファレンスにて検討し、他のサービス事業所との話し合いを行っている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	本人の必要性を考えて、長期的なケアマネジメントについて地域包括支援センターと話し合いを持っている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望に添ったかかりつけ医があり、家族の付き添いで通院又は往診していただいている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	状態変化があった時は、家族と相談し主治医や認知症の専門医に相談するように支援している。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	週3回看護師に来てもらい相談したり、直接本人の状態を見てもらって健康管理に努めている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院中の情報交換に努め必要な時には病院に出向いて早期退院できるよう連携している。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した利用者については看護師に相談し、主治医、家族が良く話し合い対応状況がはっきりした段階で、総合的に方針決定をする。又職員全員で情報を共有し徹底している。		看取りは今のところ環境の整備等をしないと、取り組みない状況である。ただし、医師、家族、事業所の条件が整えば、ぎりぎりまで何とかしてあげたいとは思っている。リスクも高いので、どのような体制が必要か慎重に検討したい。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化した利用者が出た場合は、医療機関や家族と連携をとり変化にそなえて対応している。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	緊急入院の方はおられたが、別の居所に住み替えられた方はいない。		別の居場所に移り住む際には、本人のこれまでの暮らしを継続できるように情報の提供を行っていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		<p>本人の誇りやプライバシーを尊重した対応を行っている。記録物は棚の中に保管し、個人情報の取扱には特に気をつけている。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している</p>		<p>本人に希望を聞いたり、本人が自分で決めて行動できるように支援している。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		<p>大まかな一日の流れはあるが、各々の活動については本人の意向を尊重し、無理強いしないよう支援している。</p>
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		<p>本人の行きつけの店がある方は、家族に付き添ってもらい散髪している。その他の方はお孫さんから散髪をしてもらったり、ホームで散髪を依頼し身だしなみを整えている。</p>
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		<p>食べたいものを聞き、買物にも同行していただいている。庭の畑から野菜を収穫して食材を準備したり、野菜の下ごしらえ、盛り付け、片付けも利用者と一緒にやってテーブルを囲んで食事をしている。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		<p>1人1人の好みを理解していて、本人の様子を見ながら楽しめるように支援している。酒、たばこについては、体調管理の面及び家族の要望により提供していない。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄パターンを把握し、必要な方には排泄の確認を行ったり、その方にあった介助を行っている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	その人に合った時間帯やその時の気分によって時間をずらしてみたりしながら入浴していただいている。基本的に夕食前までに入浴していただいている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夕食後、特にゆったりと過ごしていただき夜間よく眠れる様に支援している。寝付けない人には添い寝をしたりそばにいて話を聞いたりして安心できるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除や台所仕事、外周りの仕事など本人のできる事をお願いし、張り合いや気晴らしのできるような生活を送れるように支援している。		それぞれの方に楽しみを見つけていただけるように、支援して行きたい。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力により通院時、買物を楽しんでいる。お金を所持することで安心していただいている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	お天気の良い時は、散歩に出かけている。時間と場所を把握し、自由に散歩を楽しんでいただいている方もいる。本人の要望により買物やドライブ等にも出かけている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご家族の協力により、お墓参り、旅行、温泉などに出かけている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人の能力、要望により、手紙や電話ができるように支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時は、居間で皆さんと過ごしていただいたり、希望により本人の居室で過ごしてもらったりしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていないし、職員も正しく理解している。本人の自由を束縛しないように取り組んでいる。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関と居室の鍵を掛けていない。本人が強く希望する時のみ居室に鍵を掛けている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者の所在の把握に努め安全に配慮している。GPSを利用している方もおられる。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとりの状況に合わせて保管の必要な物は危険のないように保管し、身近に置いても大丈夫な物は誰でも使えるようにして管理している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒の危険のある人には付き添い、歯のない利用者には細かく刻んで食べ易くしている。又、事故報告書に記録して、事故原因の理由について話し合う場を設け、職員間で情報を共有し、事故防止に取り組んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急法を年1回と、月1回の防災訓練を行っている。		いざという時には、冷静に使えるようにしたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	町内会と連携をとり、駆け付け伝達訓練を行っている。毎月1回、火災、地震を想定した防災訓練を行っている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	自由に散歩に出掛けたり、足取りが悪くなくてもなるべく歩行してもらったりすることで、リスクは多いけれどその反面、ゆったりとした暮らしを大切にいただけたら、家族に話し、支援している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェックや表情から、体調の変化や異変に気づいた時は、看護師と連絡をとり状況に応じて受診につなげている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の薬については、職員が共有できるように説明書をケースにファイルしている。服薬時、本人に手渡しし、薬の量や処方が変わった時には、状態変化を見逃さないように努めている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘をしないように繊維質の多い食品や水分を多めに摂取したり、体を動かす等の働きかけを行い、便秘予防に取り組んでいる。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアを介助したり、自分で出来る方には声掛けをしたり清潔保持に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重の増減をチェックしながら、食事量に気を付けている。午前、午後のお茶の時間には水分を摂っていただいている。食事の摂取状況を毎日健康チェック表に記録している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザの予防接種は、入居者、職員全員が行っている。外出から帰って来た時は手洗い、うがいを励行し、マニュアルを備え付けてある。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	新鮮な食材を使用する為、毎日買物に行っている。まな板、布巾等は毎晩消毒をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物の周囲にプランターを置いたり花をたくさん植えたり、駐車場の入口に看板を設置して、わかり易くしている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は障子戸で心地よい光が入り、それぞれの居室は音やにおいが遮断されない作りになっているので、生活感が感じられるような工夫がされている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホールにソファを設置(冬はコタツ)して、気の合う人同士で過ごしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真、使い慣れた家具を持ち込み、本人が居心地よく過ごせるように工夫している。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	掃除の時は換気をしている。必要に応じてエアコンを使用し、職員が温度調節を行っている。		玄関に入った際の印象、特に靴の臭いや尿臭など検討が必要。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの状態に合わせて、ベッドや畳で休んだり、てすりを利用して歩いて安全の確保が出来るように工夫している。		玄関の上がりかまち、段差の目印、暗さの解消、手すりの設置の検討が必要。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自室やトイレに目印をつけ、迷わないように工夫をしている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	軒下にベンチを置き、歌を歌ったり日光浴をしたりして、くつるげるようにしている。ベランダや庭に花を植えて、水やりや草取りをしている。		機会を作りベランダ(中庭)等で食事をする。

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・お天気のよい日には、能力や希望に応じて散歩を楽しんでいる。
- ・町内の方々に支えられており、防災時には協力が得られ、諸行事にも協力をいただき職員も一緒に参加させていただいている。
- ・それぞれのペースを大切に生活していただいている。毎日歌を歌ったり音楽を聴いて、精神の安定を図っている。